

私たちの活動や意見を仲間で共有します。  
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

# 土浦平和の会ニュース

2022年10月15日 第368号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//tutiuraheiva.web.fc2.com/



## 国民生活かえりみず、戦争への道まっしぐら ‘23年度軍事費 6兆円大幅増を要求、「敵基地攻撃能力」保有へ着々 岸田政権の暴走止める秋の運動に全力を

防衛省は2023年度当初予算の概算要求を決定しました。過去最大の5兆6千億円とともに、軍事費のGDP比2%を視野に入れた金額未定の「事項要求」100件超が盛り込まれています。

岸田政権の軍事力増強、「敵基地攻撃能力」保有の政治方向が予算に色濃く反映された“際限なき軍拡”＝“戦争する国”への道まっしぐらの危険な政権の本性が現れています。

庶民の暮らしはそっちのけで

国民多数の反対を押し切って強行された憲法違反の安倍国葬、統一協会との関係は議員個人の責任と言い訳し、党としての調査は拒否。この政治のもとで、庶民はとどまることのない物価上昇に苦しんでいます。政府のやることと言えば旅行業界ばかりを支援するキャンペーン、そして思惑通りに進んでいないマイナンバーカードは突然“任意”から“強制”への急転回。政権の頭脳が「対米公約」の軍拡しか見て



JASSM：米国製対地攻撃用ミサイル  
2023年初めて取得費を計上、F15戦闘機への搭載を念頭に

いないかのような暴走ぶりです。

大軍拡・改憲阻止の秋の運動に全力をあげましょう。



国民の目ごまかす「事項要求」

金額を明示しない「事項要求」が従来予算に加わることとなります。この部分に「敵基地攻撃」に利用可能な武器の取得を列挙しており、従来予算と合わせて6兆円代半ばの可能性がります。小さく見せる詐欺師的手法。

## 土地利用規制法は廃止を

「人権抑圧の危険」の声無視して全面施工強行

10月11日、政府は土地利用規制法に基づき、住民を監視下に置く「特別注視区域」などの具体的地名を提示しました。地元自治体の意見聴取の上、年内の指定を行う考えです。

土地利用規制法は、国が指定した施設の周辺を「注視区域」に指定し、政府の勝手な裁量で利用の中止を命令・勧告し、従わなければ刑事罰を科すというもの。住民本人の同意なく個人情報を「収集」し、個人が監視下に置かれることが想定されます。今回の第1弾指定は5都道県に所在する自衛隊基地で、茨城県内からの指定はありません。

茨城県平和委員会は、9月県議会に対して「土地利用法の全面的な施工を中止し、廃止する意見書提出を求める請願」を提出しました。

### 土浦 10月の街頭アピール行動

「9条守れ 憲法生かせ」、「安倍国葬反対」・・・

10月19日(水) 午前10時～(30分行動)

ケースデンキ真鍋店前 主催：土浦 憲法共同センター

オンライン土浦会場でごいっしょに

2022年 日本平和大会

(11月26日～27日開催)

No! 大軍拡 ・ YES! 憲法

土浦会場は11/26午後のプログラムのみ

11月26日(土) 13:00～16:30

会場： ワークヒル土浦 特別会議室

#### ① シンポジウム

ロシアのウクライナ侵略と平和なアジアと世界への展望

#### ② 分科会

敵基地攻撃・大軍拡を許さない運動の学習と交流

※土浦会場参加は無料です。部分参加もOKです。

※全日程参加のご希望の方はご相談ください。

(有料参加となります)

## 「しんぶん赤旗」記者語る 「徹底追求 統一協会！」 茨城革新懇の講演会に会場いっぱいの参加者



9月14日午後、県立青少年会館で茨城革新懇主催の講演会が開かれ、しんぶん赤旗社会部長の三浦誠さんが「徹底追求 統一協会」と題して講演を行いました。

講演で三浦さんは、①統一協会とは何か？ 灵感商法と反共主義、②しんぶん赤旗はどう報じてきたか。全国紙との違い、③なぜ赤旗は統一協会とたたかえるのか。赤旗の歴史、などの角度から、事実を即して克明に報告しました。質問コーナーでも次々に手が上がり、三浦さんはていねいに説明。第一線記者の目で追った統一協会の恐るべき実態と自民党との深い関係を告発しました。

### 新聞意見広告賛同のお願い

茨城県平和委員会では、今年も「平和意見広告」掲載の取り組みを進めています。

ロシアによるウクライナ侵略は、国際法や国連憲章に反する蛮行であり、許されません。この侵略戦争の中で、ロシアはウクライナ国内の原発を攻撃するとともに、核兵器の使用をも示唆しています。このことは、凶らずも「核兵器が平和の安定につながる」という「核抑止論」が成り立たないことをあからさまにしました。

今年の意見広告で私たちは、

- 「ロシアによる侵略をただちにやめよ」
- 「日本政府は直ちに核兵器禁止条約に署名し批准せよ」
- 「東海第二原発を廃炉に」と訴えます。

みなさまの厚いご賛同をお願いします。

#### 【賛同いただける場合】

個人：1人1口1,000円 ・団体：1口3,000円

「申込書」は各種ルートで配布中です。

## 追悼 山口 雪雄さん

### いつも平和運動の最前線に 立って、運動継承に尽力

山口雪雄さんが8月16日逝去されました（90歳）。

山口さんは山形県生まれで農林省蚕糸研究所に研究員として勤務しながら東京杉並平和委員会で活躍されていましたが、研究所がつくば市に移転してからも職場の労働組合や地域で活動されました。1992年茨城県平和委員会が再建されてから理事に推薦され、会長制度ができてから副会長に選ばれ1999年まで務められました。

1994年、「土浦平和の会」結成の中心メンバーとして理事を務め、2019年、健康上の事情で退任されましたが、その間25年にわたって会の運動を支えてこられました。

山口さんの平和に対する思いは多分杉並の原爆マグロ反対運動から語らなければなりません。土浦での活躍は自衛隊基地の調査活動から記憶に残っているところです。平和の会は結成早々の5月に陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地、航空自衛隊飛行学校、パトリオット基地、阿見の武器学校（予科練記念館）等の見学を行いました。そのころから霞ヶ浦駐屯地は武器補給処として整備拡張が進められ、木造の旧建築物は一新されていきました。内部の見学を申し入れても許可してくれませんでしたから周辺から堀越しに覗いて写真を撮りましたが、隊員が飛んできて「ちょっと来てくれ」言うので「写真を撮ってなぜ悪いのか」と抗議したこともあり。9月にはフランスの水爆実験があり土浦市内7団体が緊急集会を開いて大使館に大統領あて抗議文を送付したこともあります。百里の初午祭り、オキナフとの連帯、平和行進や平和の旅など、山口さんはいつも積極的な役割を果たしてきました。

平和の会の理事を退任された後も年金者組合土浦支部の顧問として年金者組合の発展のために尽くされました。

山口さんの平和に対する情熱は目立たなくても並々ならぬものがあったと思います。永く土浦市における平和運動の中心にあって、運動継承の大功労者と言える山口さんのご冥福をお祈りいたします。（理事 井上仁志）

#### 【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」（毎月5、15、25日発行）：月額593円（送料含）

